

白井大師 番外 小名内・梶原大師

- 1 名称 (No.032) 〔昭63：梶原大師様〕〔平17：梶原大師〕
- 2 場所 白井市名内1094付近
富塚・木下太子堂から道程約1,560m
GPS座標 35.82746220318763, 140.04882119421646
- 3 由緒 「奉開眼 高野山遍照光院第五十五世 伝燈大阿闍梨有鋈 大正二年二月廿一日」とあることから、梶原石五郎氏によって大正2年頃に建立され、その後昭和53年に新しく再建されたものと思われます。
- 4 御堂 御堂の中の厨子に納まった丸彫りの御大師様が1体あり。
- 5 境内 大師堂のみ。
- 6 写真 (2023.11撮影)



大師堂



御大師様



大師堂

7 情報

(1) 新四国八十八ヶ所再興発起人 梶原石五郎

白井市名内出身の人物で、明治時代に「新四国八十八ヶ所再興発起人」と称した、梶原石五郎(かじわらいしごろう)という人物がいます。彼は開設当初の「下総四郡八十八ヶ所霊場」の札所を巡る運動を起こし、いくつもの霊場で巡礼を行いました。梶原家には当時の納経帳が残っており、明治39(1906)年から明治44(1911)年の間に7つの霊場を巡ったことがわかっています

梶原石五郎が巡礼を行った理由は、江戸時代後期から徐々に衰微していった新四国霊場を再び復活させることでした。そのための講を組織し、遍路絵図や御本尊図を作成するなど、熱心な活動をしていたことが「新四国八十八ヶ所講連名簿」等の残されている資料からうかがえます。

また、白井市中には東葛印旛大師の番外札所になっている梶原大師堂があります。以前はここに約1,000人近い巡礼者が集まり、付近にある梶原石五郎の生家で中食(ちゅうじき=昼食)をとっていたといえます。

梶原石五郎が活躍した時代から100年以上経過した今、彼が復活させようとしていた「下総四郡八十八ヶ所霊場」は残っていません。しかし、梶原石五郎の残した多くの資料は後世へと

伝わっています。梶原石五郎の足跡と信仰は確実に継承され、現在まで続いているのです。

(令和4年度白井市郷土資料館企画展解説冊子「新四国巡礼～人々の祈りの旅～」より)

(2) 梶原石五郎納経帳

梶原氏は、明治39年から44年にかけて北総地域の霊場を巡礼していて、その時の納経帳が8点残されているそうです。白井大師が創立されたのは明治37年(1904年)のことです。白井においても八十八ヶ所巡りが盛んになり、新四国霊場にも関心が向くようになったのでしょうか。

印西大師八十八ヶ所(明治39年7月28日～8月3日)

相馬霊場八十八ヶ所(明治39年8月9日～8月12日)

新西国秩父坂東観音霊場(明治40年1月5日～2月4日)

四ヶ領八十八ヶ所(明治40年3月14日～3月17日)

吉橋大師八十八ヶ所(明治40年2月21日～2月26日)

葛飾大師八十八ヶ所(明治40年8月9日～8月12日)

新四国四郡(下総四郡)八十八ヶ所(明治41年1月5日～6月22日)

新四国四郡(下総四郡)八十八ヶ所(明治44年)

(村上明彦「新四国八十八ヶ所再興発起人・梶原石五郎について」2008.12利根川文化研究32)

(3) 御詠歌

ありがたや 高野の山の いはかげに 大師はいまだ おはしますなる

(4) 納経帳とタオル

2023年11月に梶原家を訪問したときに見せていただいた四国八十八ヶ所の納経帳です。60回以上四国遍路に行ったそうです。真っ赤になっています。帰りに御接待の時に配るタオルをいただきました。

